

巻頭特別インタビュー

日本で活躍する外国籍ビジネスパーソンに、
ビジネス成功の秘訣と日本語との関わりを語っていただいた。
彼等にとって日本語とは？



私は「日本人」と 恋に落ちたんです。

シャネル株式会社 代表取締役社長

リシャール・コラス氏

Richard Collasse

1953年フランス生まれ。パリ大学東洋語学部卒業後、75年より在日フランス大使館勤務。その後、ジパンスイ東京オフィス設立に参加。日仏間のファッションビジネス交流のリーダーとなる。95年にシャネル代表取締役社長に就任。99年国家功労賞シュバリエを受賞。現在欧州ビジネス協会協議会(EBC)会長も務める。

池崎 日本社会が少子高齢化に向かっている中で、外国人の、技術的・専門的に優れた高度人材に活躍していただく環境を日本は整えていくべきではないか、と言われております。その中で、私どもは「日本語教育」という立場で社会貢献・国際貢献をしていこうと、NGOを作りました。コラス社長は日本語も習得され、日本でビジネスの成功を収めていらっしゃいます。今日は、日本におけるビジネスの成功と「日本語」に関わるお話をお聞かせください。シャネルは、レストランもオープンされたり、銀座の店舗も大きくされるなど、新聞で何っておりますが…。

コラス おかげさまで。いろいろな分野がありますが、幸いなことに全て順調です。

池崎 その順調の秘訣というのは、社長の戦略の結果でしょうか？

コラス いや、それは長年の努力だと思います。シャネルが日本に上陸して30年近く、焦らずに自分の考えた通りにやってきたということですね。成功するには毎日の努力ですから、素晴らしい名前を持っていても安心することはなく、緊張感を持ってやらなければダメですね。例えばシャネルのような大きな名前でも、毎日の努力ですね。

池崎 その「努力」とは、具体的には？

コラス やっぱり全てが我々の理念に基づいたものであるかどうかですね。商品は完璧であり、売り方も完璧であり、そしてアフターケア、さらにサービスもまた完璧でなければいけない。つまり非常に細かいものの積み重ねじゃないでしょうか。

あとは、我々は安売りはしないという戦略、というよりは哲学みたいなものですね。化粧品ビジネスでは、これを買ったらこれをタダであげるといったかなりプロモーションなビジネスが主流ですが、シャネルは一切それをしません。我々の商品を買ってくるためにお客様がいらっしゃるのであって、ギフトを期待して購入する方のためのもではないのです。まあ、消費者をリスペクトしながら、自分をリスペクトする、ということですね。**池崎** それでは、コラス社長と日本の関わりについて教えていただけますか？ 初めての日本との関わりは何年前でいらっしゃいますか？

コラス 32年前。

池崎 32年前ですか!! 日本とのどんな関わりが最初だったのですか？

コラス 幸いなことに、わたしは30年前は若かったんですよ(笑)。まだ、高校を卒業した年でしたね。きっかけは非常に長いストーリーです。ブラジルへ行かなかったから、日本へ来たという、変わったものなんです。

池崎 また何故ブラジルへ？

コラス 当時、私は写真に興味があって、世界のアマチュア賞を受賞したりして、カメラマンになろうかなあと考えていたのです。父の友人に冒険家がいる、アマゾンの奥地を冒険した本を出したいと考えていて、その写真を撮って欲しいと言われたのです。私は有名な写真家じゃなかったけれど、そこそこキレイな写真を撮っていたし、あとは父がパイロットだったので航空券がタダだ

「日本語を勉強するほど、日本人の「こころ」に入っていくのです」



ったんです。父の友人はお金がなかったから「おいお前の息子借りてもいいか」って感じで。ヨーロッパは夏休みが非常に長いので、アマゾンへ3ヶ月も行くことに母が猛反対してね。当時は情報手段も発達してなくて、「3ヶ月もアマゾン奥地に行ったら音信不通になるなんて耐えられない」と母に言われ、ブラジル行きは止めたのです。それで、長い休みが空いてしまったところ、父から「日本へ行ってみたら？」と言われて。父はエールフランスのパイロットで世界中を飛んでいたのですが、一番気に入った国が日本だったのです。そのころ私は、あまり日本に興味がなかった。けれども、ただ一つだけ、日本は優れたカメラを作っている国というのは知っていた。初めての日本はMy first Nikonを買いに来たんですよ(笑)。

池崎 それが32年前ですか。

コラス そうです。それで、まさか30年後にずっと居ることになるとは思わなかったです(笑)。最初は、ホームステイで来たんですよ。当時は日本でホームステイしようとする人はとても珍しかったようで、旅行会社へ行ったら日本の家は小さいしホームステイさせる文化はないって笑われましたね。すごいかかりました。

池崎 それで、どうされたのですか？

コラス 父が知り合いのエールフランスの日本人フライトアテンダントに「息子がね、日本に行きたいんだけど」って言ったら「ああ、いいよ。私の知っている友達を紹介するから、そこにステイすればいい」という事になって。東京に着いたときから日本人家庭に泊まったのですよ。

池崎 そのとき言葉はどうなされたのですか？日本語を話せたのですか？

コラス 当時日本語は話せなかったのですが、その家の奥さんが英語ペラペラで、一番年の近い息子さんもフランス語を勉強中だったので、英語とフランス語が通じました。その後、日本国内を旅した時も、運が良くて、東京ーパリ間で一緒だったフライトアテンダントが、一人旅の私に驚いて、母親が神戸に住んでいるので、関西方面に行くなら、そこに泊まればいいって紹介してくれたのです。それから行く先々で知り合った日本人が「うちに泊まりにきたら？」と声をかけてくれて、40日間旅をしてユースホテルに泊まったのは1泊だけでした。当時私も純粋だったのですが、日本人がとにかく優しくった。その経験が自分にとって印象的で、私は「日本人」と恋に落ちたんです。

池崎 日本人全般に対して、恋に落ちたということですね。

コラス そう、日本人、その国民性にね。もちろ

ん、日本の文化にも。ただ、まだまだ「日本の女性」じゃなかったね、その時点では(笑)。

池崎 その後日本人女性にも…？

コラス あとは、まあ、いろいろね(笑)。フランス人だしね、いろいろロマンがあったけど(笑)。

池崎 奥様も日本人でいらっしゃいますよね(笑)。

コラス それでね、すごい印象受けて、やはりこの国のことをもっと知りたいということで、日本語を勉強し始めたのです。

池崎 日本人を知りたいために、日本語の勉強を始められたのですか？

コラス すっごく気に入ったんですね、日本が。日本に来て「あっ、次に住みたい国、ここ日本だ！」と。それは日本人のおかげですよ。それでずっと日本語を勉強しながら、行ったり来たりしてて…。私は、航空券が無料ですからね。パリからニースまで電車で行くより、日本へ飛ぶ方が安いのですよ(笑)。昔はね。今は違いますけれどね。

池崎 やはりそれだけ日本や日本人が好きできて下さったんですね。

コラス 本当に好きだった！

池崎 そのお気持ちは、今も？

コラス 変わっていない！ 私は日本が好きで、日本人が大好き。

池崎 今の日本人に対してメッセージはおありですか？

コラス あまり変わらないで欲しいね。東京の町もそう。ここはニューヨークじゃないのだから。日本人は日本で日本的なやり方でやって欲しいですね。何でもグローバル化、グローバル化って…。もちろんグローバル化はせざるを得ないものですが、日本のいい基盤をキープして欲しいです。私はフランス嫌いですが、やはりフランス人ですから、フランスはグローバル化しても、すごく自国の文化を守るパワーがあるんですよ。それを日本も大事にしていきたいです。

言葉というのは人間の「こころ」の鏡

池崎 「日本らしさ」の一つが「日本語」ということになるかと思いますが、日本語についての印象をお聞かせください。

コラス そうですね。まず、私は日本語はそんなに難しい言葉じゃないと最初は思っていたんです。発音から見ると、そんなに難しくありません。ただ、勉強していくうちにね、敬語の使い方とか、いろんな壁にぶつかっちゃってね。「なんでこんな言い方するの？」とかね。また、逆に言うと、言葉というのは人間のマインドの鏡ですから、日

本人のマインドは、西洋人のマインドとは全く違うんだと痛感しました。だから、日本語を勉強するほど、日本人の「こころ」に入っていくのです。**池崎** 言葉は人間の「こころの鏡」ですか、本当にそうですね。

コラス ただ、日本人は、外国人が日本人の「こころ」に入り込むのを嫌がりますね。最初「さようなら」ぐらいしか言わないと「日本語上手だね」って。でも、本当に上手になると日本人はもう「上手ですね」って言わなくなっちゃう。あまり上手になると「あー、あいつ何だ！」って。「日本のこころに入り込むな！」って。

池崎 自分たちを理解されたくないから？

コラス そう、されたくないのでしょう。そこが日本人が閉鎖的なところだったのです。

池崎 だった？ 過去形ですか？

コラス そう、今はもうないと思いますよ。

池崎 その他に日本語についておありですか？

コラス あとは、もちろん漢字。あれはやっぱりミステリーでしたね。今まで使った文字と全く違う。私は、もちろん英語もドイツ語も勉強したのですが、何もミステリーじゃない。読めるんですよ。意味がわからなくても。でも、日本語は読めないんですね。これは、面白いです。

池崎 ミステリアスだから面白い？

コラス そう、勉強するほど楽しい。まず500字の漢字を覚えたんだ！ 次は1850字覚えた。そしてたら2000字に増やしたでしょ（注1. 日本語能力1級に必要とされる漢字数が1850→2000に増えた）。バカヤロウって思ったね（笑）。

世界で唯一「外国から来た言葉を書くのに別の字がある」っていうのがとても興味深い

池崎 カタカナはいかがですか？

コラス 私はね、カタカナが一番苦手なの。なぜか分からないけど、漢字は覚えたり、ひらがなも問題ない。でもカタカナって、例えば「メ」ってどうやって書くっけ？とかね。きれいな言葉、きれいな字じゃないよね、カタカナって。

池崎 そうですね、直線的ですよ。

コラス でも、面白いですよ、日本語は。世界で唯一、外国から来た言葉を書くのに別の字があるっていうのがね。とても興味深い。

池崎 日本人は最近日本語で言える言葉も、あえて、英語をカタカナ読みして言葉にしてしまう。そんなカタカナ語の使用をどんなふうに思われます？

コラス まあ私はノーマルに感じています。若いフランス人もやはり英語を多用しています。

池崎 やはりフランスでもありますか。

コラス ありますね。言葉って生きているものだから、時代と共に変わっていくのが当たり前だと思います。ただ、私の国は、唯一今でも12世紀の本を読んでもわかるんです。平安時代の文書は21世紀の日本人は普通に読めないでしょ。フランスだけなんです、現代人でも普通に12世紀の文書が読める。なぜならフランスアカデミーがあったからなんです。

言葉一つ一つを確認して、その意味を明確にしてきたので、12世紀のフランス語で書いた文章も今のフランス語と大して変わらないのです。もちろん分からない単語もあるけれど文法は同じなんです。それは、世界の言語の中で唯一ですよ。ドイツ語もそうはいかないし、英語も昔の英語は「なんだこりゃ」ってものがありますよ。でも、まあ言葉はevolutionなのは当たり前ですね。

通訳されることでは、私の気持ちの熱さが伝わらない

池崎 ビジネスキャリアに役立った日本語、についてお伺いしたいのですが、日本でビジネスされる場合、やはり日本語が話せるということは役立ちますか？

コラス 役に立ちますね。僕の商売で言えば、販売員は英語ができる人がほとんどいない、いてもかなり少ない。「今、何が売れている？」「うちの新品はどうですか？」「お客様の反応は？」そういうことを直接聞きたいのです。もちろん通訳を介してコミュニケーションできないことないけど、それじゃ伝わらない。我々の業界で、日本語ができないけれど日本でビジネスをしている人もいるけれど、それではコミュニケーションに無理があると思います。

池崎 何が失われてしまうのですか？

コラス やはり自分がマーケットを感じることやビジネスチャンスを含め。例えば、シャネルとは別ですが、今欧州ビジネス協会（EBC）の会長をやらせていただいています。昨年3回ほど小泉総理大臣に会いました。その時、何語で話すべきか、普通は母国語で話しますよね、後ろに通訳がいますしね。しかし小泉さんは「コラスさんが日本語で話すときは、すごくコラスさんのアイデアが伝わる」って言われて日本語で対談しました。話すときは、私は腹で言うからね。フランス語で話して通訳されることでは、私の気持ちの熱さが伝わらない、フラットになっちゃうんだよね。うちにいる何人かの外国人、そんなに多くはないけれど





ど、日本語ができなければ私は採用しない。または、優秀なマーケティングの人がフランスにいたら、まずは3ヶ月ベーシックな日本語を勉強させます。そして、日本へ来たなら「お前はずーっと日本語の勉強をし続けろ」ってね(笑)。

池崎 最近、日本でもオフィスで英語を共通語にしようとする企業が増えていると聞いていますが、グローバル化を目指す企業は世界市場で戦えるよう、英語が必須だ、英語を公用語に、と主張する経営者もいらっしやるんですよ。

コラス 本当の国際化は、自分の言葉（日本語）を使って必要なときは英語に切り替えるということなんです。無理して、みんな英語でしゃべって…冗談じゃない！ 私は、うちの日本人には日本語で話しているし、誰もが英語を話せる必要は無い。必要なポジションの人は勉強し、話せるようになるべきだけれど。私は英語が話せなきゃダメ！とは言わない。あとは、まあ自分の好みでせっかくフランスの会社に勤めているのだから、フランス語を勉強すればいい。シャネルの文化はフランスの文化だし、ある程度フランスをわからないと。先ほど申し上げた通り、言葉っていうのは、その国のメンタリティーだから、その国の歴史の鏡ですから。

池崎 私が今回このBNAの活動をより強めたいと思ったのは、日本人の日本語能力が非常に落ちているんじゃないかと感じているからなんです。

コラス ええ、そうですね、落ちてますね。

池崎 コラスさんもそう思われます？

コラス もちろんもちろん。若い人は全然日本語できないよね。

池崎 そうですね。それに対して危機感を持っています。例えば文部科学省などで、小学校4年生のときから英語を義務教育化しよう、という意見がありますが、そうしますと日本語の力もできていないうちに英語もやり、両方中途半端になるのではないかと。それで、英語の能力試験TOEICの日本語版で、TOJICという試験を設定したいと思っています。日本人が母語である日本語力・コミュニケーション能力をきっちりつけた上で、第二言語、第三言語を身につけていかないといけないと思っているからです。

コラス それはそうですね。

池崎 日本人にとっても、日本の言葉っていうのは自分で獲得しなければいけない能力だと思うんですね。だから日本人が日本語も一生懸命努力して獲得する、英語も獲得する、フランス語も獲得する

という、そういう意識を作っていけるような活動をしたいです。

コラス それは必要だね。我々の場合は、新入社員、特に販売員で入る社員は、短大卒業した二十歳くらいの人が多いのですが、まずシャネルについてうちの学校で学ばせるんです。シャネルの商品とか伝統とか歴史とか全て。そしてやはり日本語を教える授業もあるんですよ。だってね、全然敬語使えない販売員が来たたらお客様に失礼ですよ。

日本語の教材について

池崎 最後に、日本の小説も日本語でお読みになるということなのですが、お好きな作品や作家というのはありますか？

コラス 幅広いですね。三島から谷崎、もちろん夏目漱石や安部公房、村上。もう幅広いです。

池崎 村上。村上龍ですか？

コラス もちろん。それと最近読む時間ないんですけども、新しいものも読みますね。

池崎 日本の新しい文化というか、漫画とかアニメは？

コラス 「ドラえもん」や「ナウシカ」は子どもたちと見てたんですけど、分厚い漫画は全然。でも私の時代はね、あの「サザエさん」だけはすごく読んでたの。私サザエさんの全てのコレクションを持ってるんですよ。今はなかなか見つからないんだよ。サザエさんをなぜ読んだかということ、日本がどう変わってきたかということを勉強するのにすごく面白かった。あと「いじわるばあさん」も。

池崎 なるほど、日本人のメンタリティーとか言葉の使い方も勉強になりますよね。前に私も「サザエさん」は、よく教材で使っていました。

本日は長時間にわたり、良いお話を本当にありがとうございました。

コラス いえいえ、こちらこそ。お疲れ様でした。

